

唐土名勝圖會  
卷之五

ル 5  
3457  
5



卷



朱來

會圖名書

直隸

順天府

卷之五

月二十月日

圖說  
 大興苑平北二縣、即京師之係、故、此、春、  
 これをのせ、又、圖中、より、南、海、の、南、海、の、南、  
 園、之、西、海、子、の、西、苑、之、其、外、玉、泉、山、壙、山、及、び、西、山、天、  
 壽、山、より、京、師、を、環、り、乾、桑、河、盧、溝、橋、に、到、る、  
 郭、烟、を、記、し、て、案、は、圖、の、と、出、せ、り、合、し、て、  
 全、と、知、る、を、し、又、易、州、の、直、隸、州、を、り、と、し、  
 方、位、に、依、て、府、の、圖、に、係、り、以、下、皆、准、之、知、る、也、

順天府



保定府	保定縣	懷柔縣	寶坻縣	東安縣	薊州	通州	順天府
清苑縣	安肅縣	博野縣	蠡縣	新安縣	新州	昌平州	良鄉縣
定興縣	望都縣	雄縣	平谷縣	房山縣	寧河縣	香河縣	涿州
安州	新成縣	容城縣	文安縣	順義縣	三河縣	固安縣	霸州
滿城縣	唐縣	完縣	高陽縣	密雲縣	武清縣	永清縣	

順天府

順天府

卷之五



順天府總圖

永平府灤州界



順天府

卷之五



府城   
 縣   
 直隸境   
 名勝古跡   
 水

宣化府 延慶州界

天津府界

靜海縣界

河間府任丘縣界

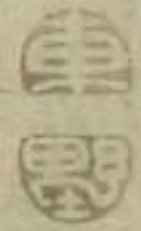
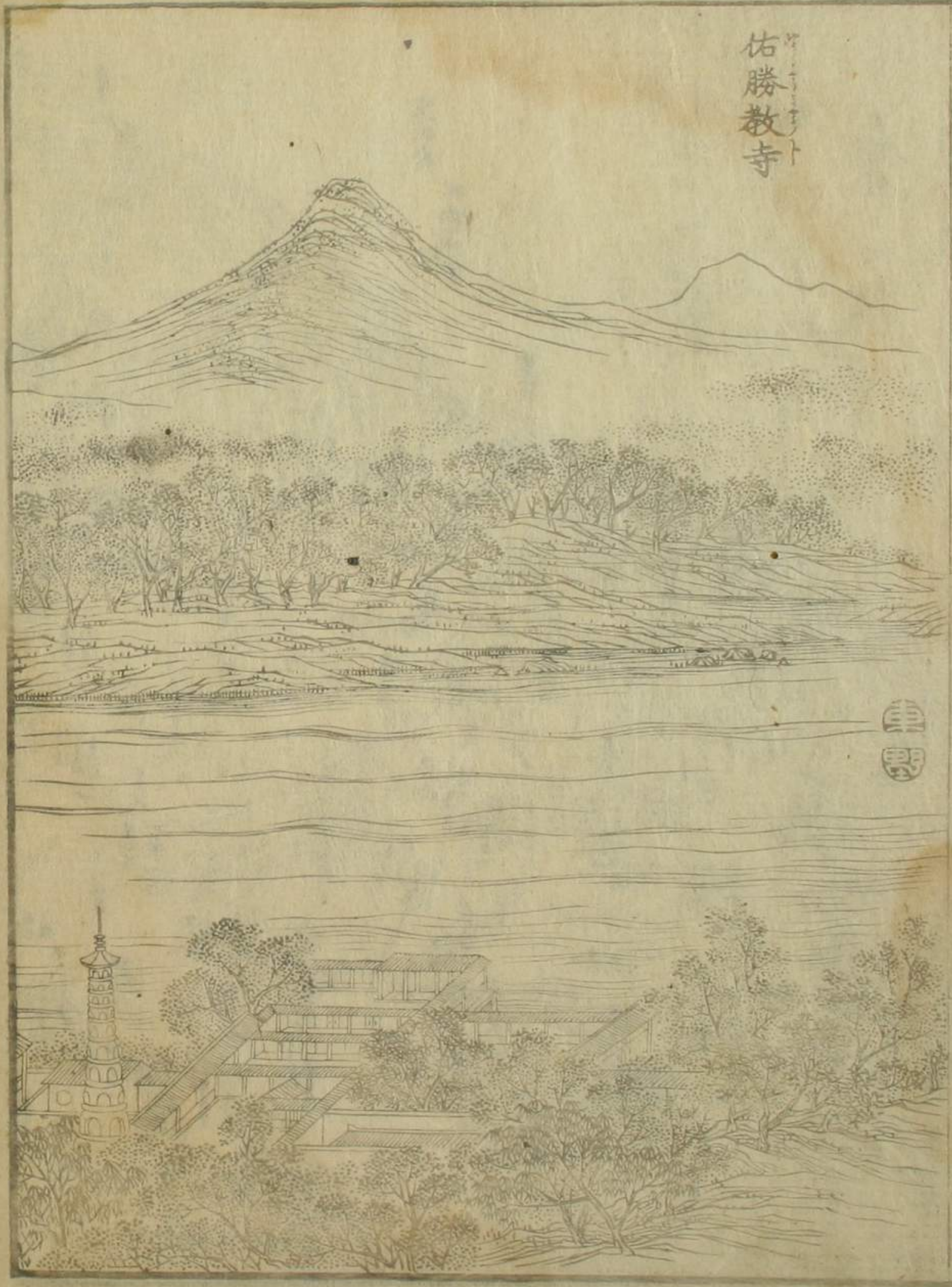
直隸

順天府

卷之五



佑勝教寺



ありて多く芙蓉と用く。眺をこれに金堂と深へつるをいし。石を名とす。

張家灣 井城の南。元の代張萬戸とす。強固の者此に居たり。元は此名あり。白河の

孤山 井城の東。北に面皆度平にして中一の峰高く挺たり。故に名とす。

長城 井城の北。秦の將蒙恬が築處なり。將臺 井城の南。其二の井城

の東。二臺の明の武寧王徐達が作らるなり。此臺の南に貴達と伝

文と疊ぶ。名を不伝。今林本にせし。其月此處に納涼とす。小又見者にさす。

水の一臺の慕容氏將を拜せし。臺あり。○通濬亭 井城の東南あり。

依勝教寺 井城の西。唐の代の故刹なり。寺内十三層の巨塔あり。其高三百二十

八周圍百に八中庭ありて内は佛堂と供せり。此塔の彫碑の銘と考る。唐の貞觀七年に造る。五代

宋の宣和元年に代りて塔を壊して之を平らにす。塔の頂は鐵の文の石あり。相傳に金の大佛を此に奉りて

○此寺白河の岸あり。天長法朗が日。塔の北。白河の流は其に挿動する。まふん方かく西向し。

張家王廟 井城の東南。明の功臣常遇春の廟なり。遇春は明の軍を率いて大將となりて通州

を平らげ、後燕都と號し。明平。唐兵極まる。遇

○人物 金の賈少冲は通州の人なり。少冲は日。教百ありと涌は進士となりて官に補用あり

常て其の後。其方は折法あり。金より少冲は少冲を名とす。少冲は日。國に名を知らしと

宋の張公遂は少冲の孫なり。少冲の孫と多し。少冲の孫なり。其始とす。若くは少冲の孫なりと

○元の王利用は通州の人なり。世祖ありて之をその寶器に利用をせし。少冲の孫なり。其始とす。若くは少冲の孫なりと

昌平州 順天府の北九十里あり。漢は軍都縣とす。上谷郡に屬し。後魏は改て昌平縣とす。明

濕餘河 井城の南。虎眼泉 井城の西。冷泉水 井城の南。抱榆泉 井城の南。沙澗泉 井城

銀山 井城の北。峯密高く崎常。冰雪層積て山色白銀の如し。石崖其

白渡山 井城の南。玉帶山 井城の北。其高三百二十

直隸 順天府 卷之五



九龍池

翠屏山

翠屏山古詩  
 我欲叩石鐘聲起  
 洞中人  
 烟蘿杳無際空鎖  
 石門表  
 石洞何窈窕云是  
 仙人庭  
 仙人渺何許瑤州  
 空自香  
 石洞官且深花落  
 無人掃  
 仙翁去不還何處  
 尋瑤草  
 荒鳴門書





後漢書地理志云。○牛山 州の西あり。嵩山に泉あり。牛山に下りて其泉水を飲ん。○軍

郡山 州の西二十里あり。後漢盧植此に居り。○積翠山 州の西二十里あり。○湯

峪山 州の西二十里あり。○駝驛山 州の西南二十里あり。○翠屏山 州の南にあり。○翠屏山 州の南にあり。○翠屏山 州の南にあり。

と云く。瀕池をさへり。名けて九龍池。○聖輝映仙都 池の正統三年。○石門 州の西二十里あり。○石門 州の西二十里あり。

天成はして冷く。○石門の内 石門の内。○石門の内 石門の内。○石門の内 石門の内。

居庸關 州の西二十里あり。○西山 州の西二十里あり。○西山 州の西二十里あり。

要險の地なり。○南 州の南にあり。○南 州の南にあり。○南 州の南にあり。

山色宴々。○系師 州の西二十里あり。○系師 州の西二十里あり。○系師 州の西二十里あり。

仙人枕。○道傍 州の西二十里あり。○道傍 州の西二十里あり。○道傍 州の西二十里あり。

狄仁傑祠。○州の西 州の西二十里あり。○州の西 州の西二十里あり。○州の西 州の西二十里あり。

居庸關

重閣深巖白雲收  
天際諸峯黛色流  
北枕龍沙通絕漠  
南臨鳳閣壯神少  
烟生睥睨千巖曉  
露濕芙蓉第壘秋  
玉臺自應華五彩  
龍文長傍日光浮  
明曾紫作尊室主人書

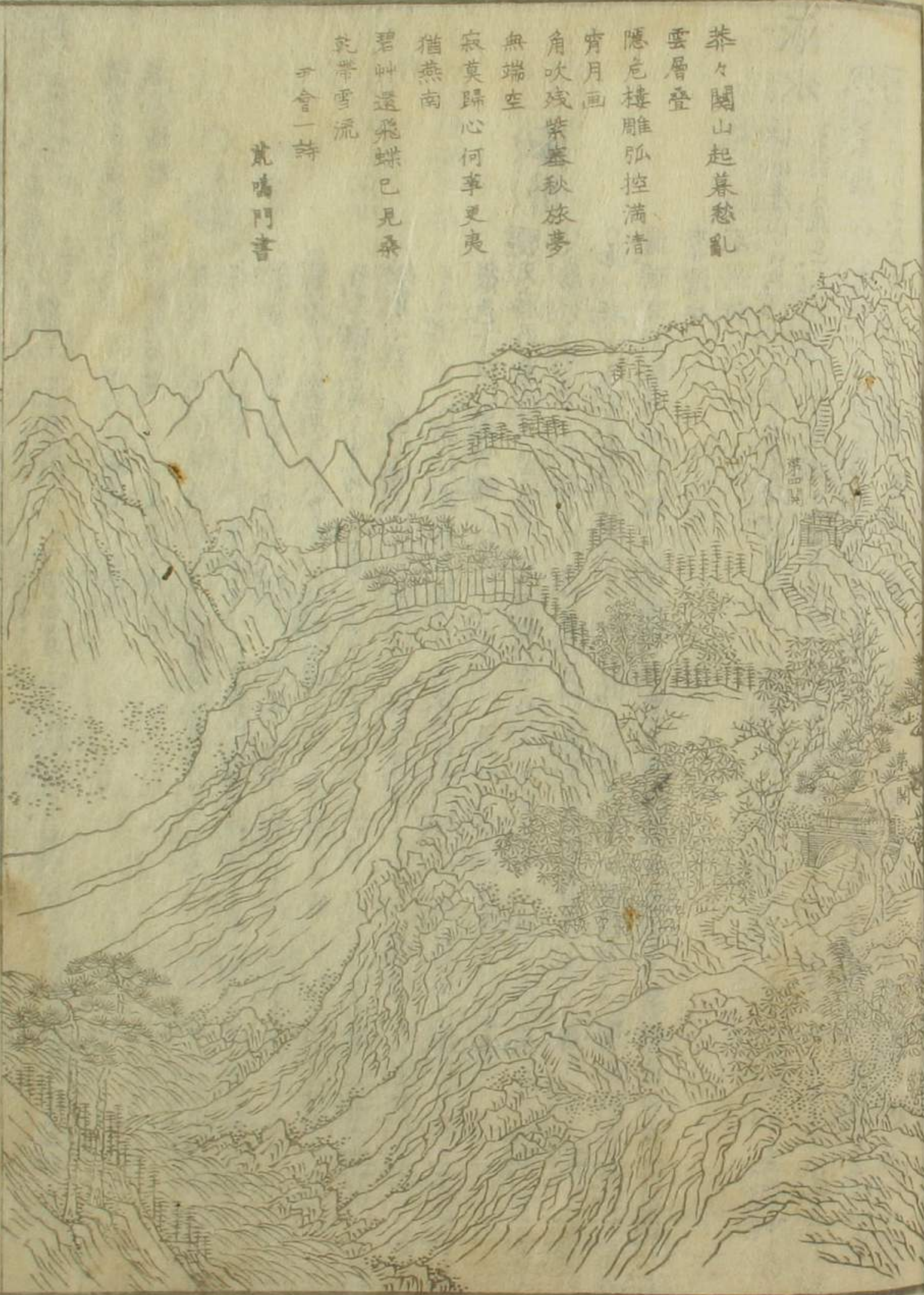
居庸關



六

七

莽々關山起暮愁  
亂雲層疊隱危樓  
雕弧控滿清宵月  
畫角吹殘紫塞秋  
故夢無端空寂莫  
歸心何事更夷猶  
燕南  
碧州遠飛蝶已見  
飛燕  
乾帶雪流  
子會一詩  
荒鳴門書



直隸

順天府

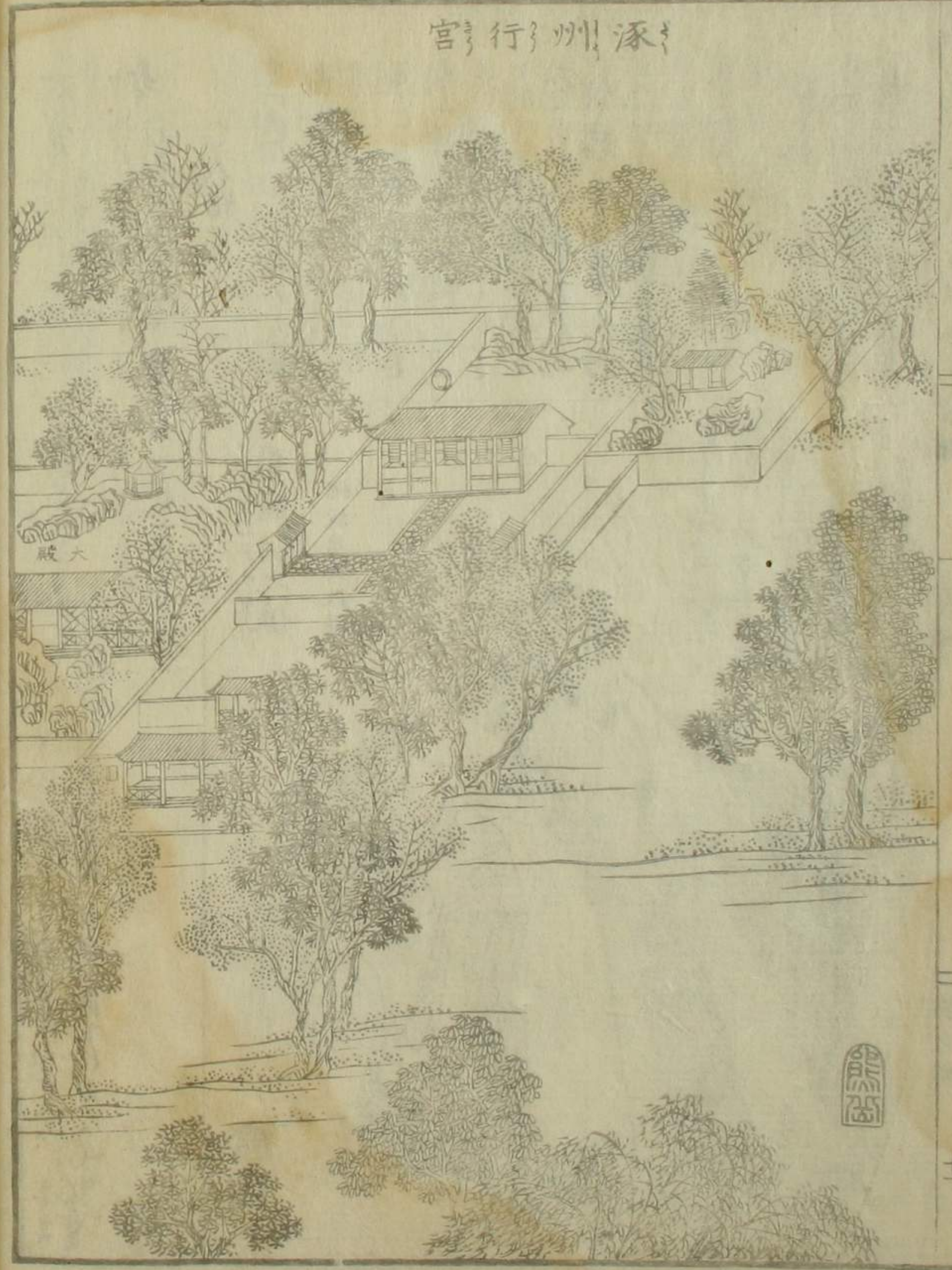
卷之五



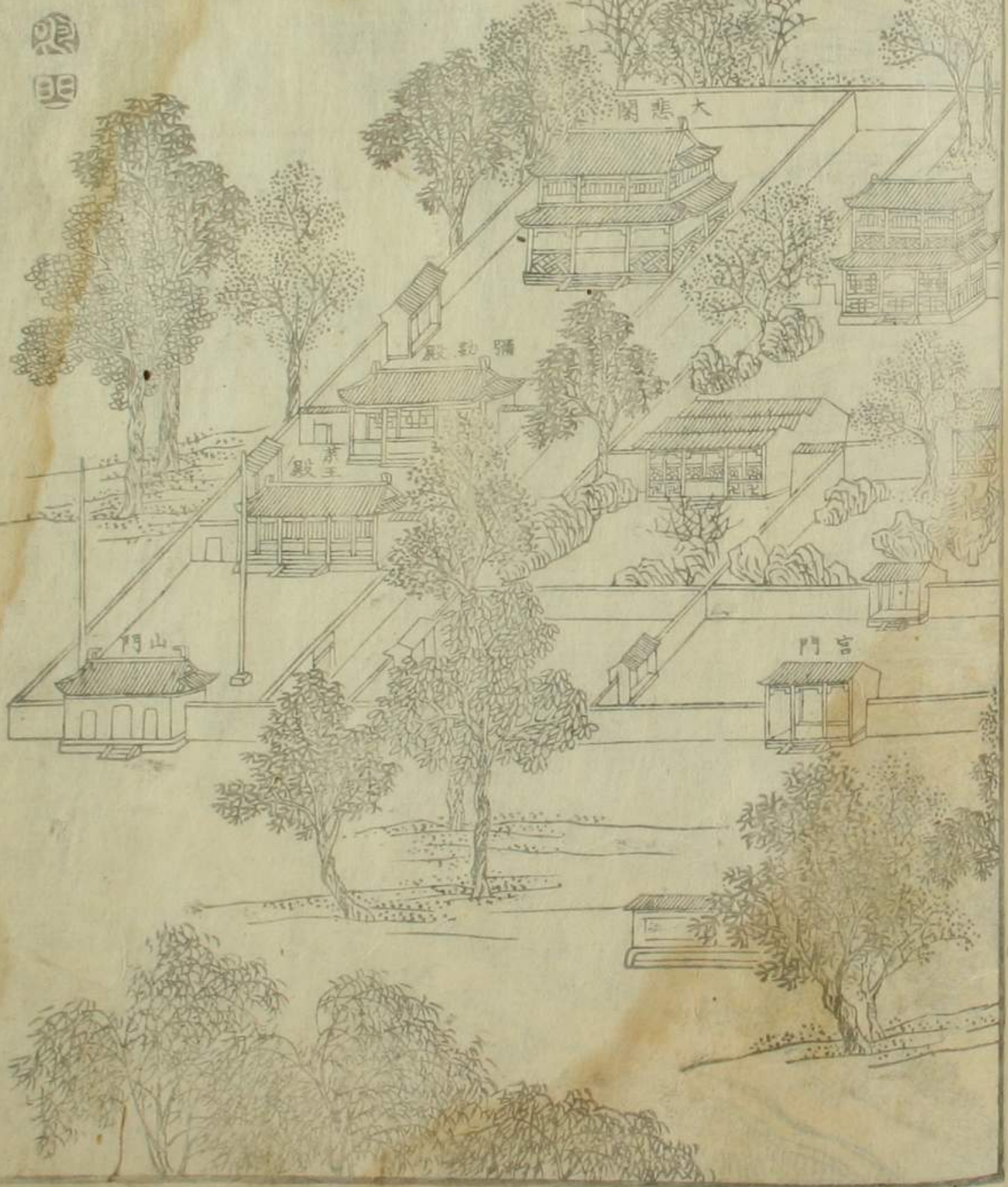




涿州行宮



練言巡江國重臨  
 凹宇  
 城軒極無藻飾几  
 席有  
 餘清興與新春發  
 心依  
 古月明金吾何必  
 禁燦  
 竹喜聲々  
 右乾隆帝詩  
 鳴門書



直隸

順天府

卷之五

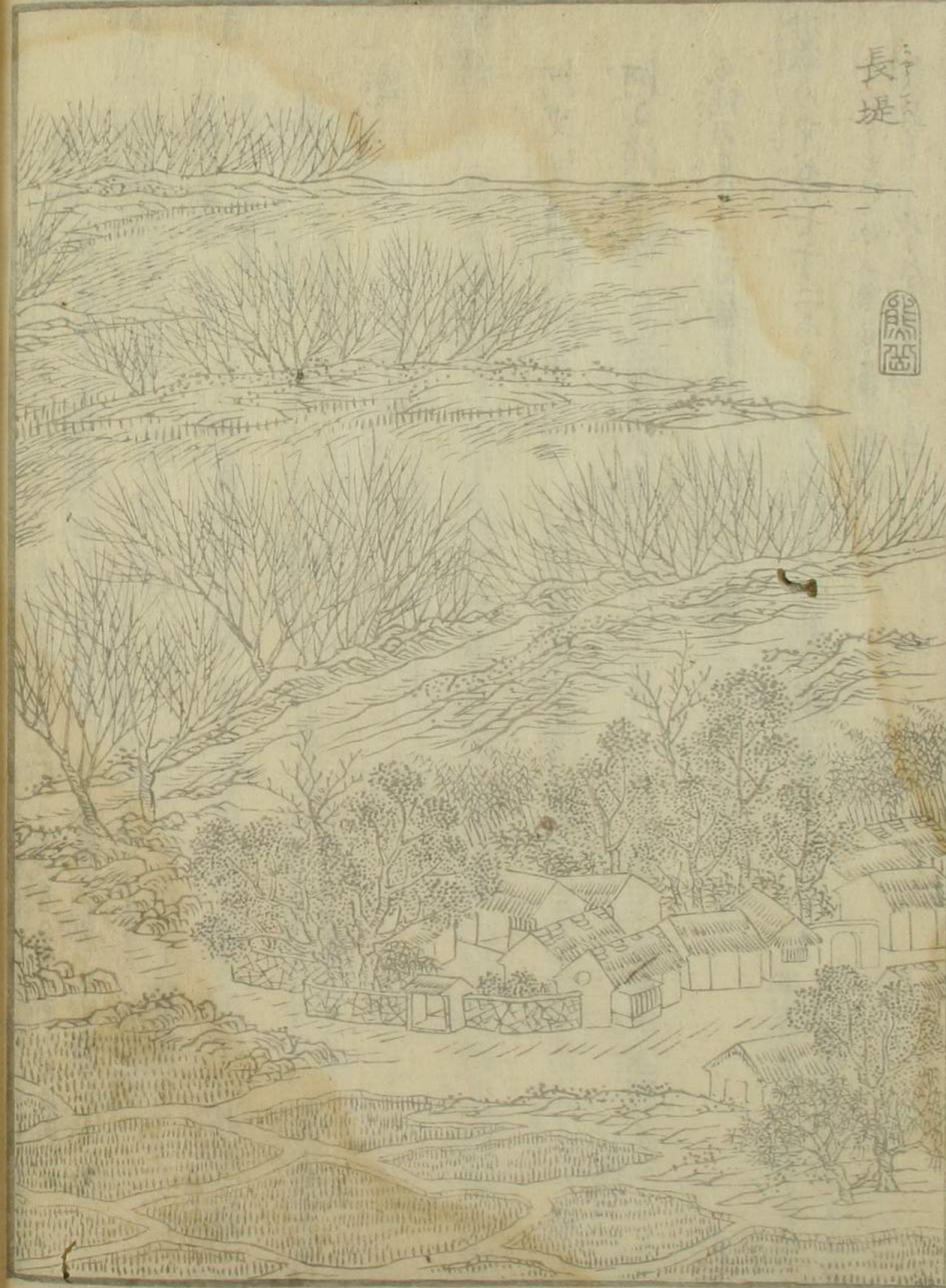
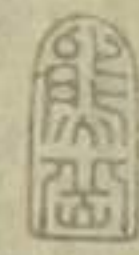
永濟橋







長堤



直隸

順天府

卷之五



盤山



蒼松亂插連雲

石上苔痕屐行

跡

拄杖來從飛鳥

邊

十視蒼茫遠烟

碧

智升盤山詩

盤山

紫蓋峯

白石



盤山

直隸

順天府

卷之五



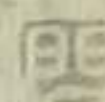


過郊臺

庚辰曾是芳旋師  
叩 既臺陳得勝  
旗自此西瀛蓋未  
賀去猶南路引餘  
思回資我力成勳  
績實藉元戎善指  
塵空澤何期駢笑  
悲 尾不禁觸境一生

右乾隆帝詩

滿門書



郊勞臺





宏恩寺

遙瞻古樹  
 蒼小憩禪房  
 窮來往頗慣  
 經年景倍  
 好古乾隆帝  
 明



直隸

順天府

卷之五

固安縣

府の西二百十里あり漢方城縣と云ふは元元のとき秦の將乃と云ふは固安縣に属す

武陽城

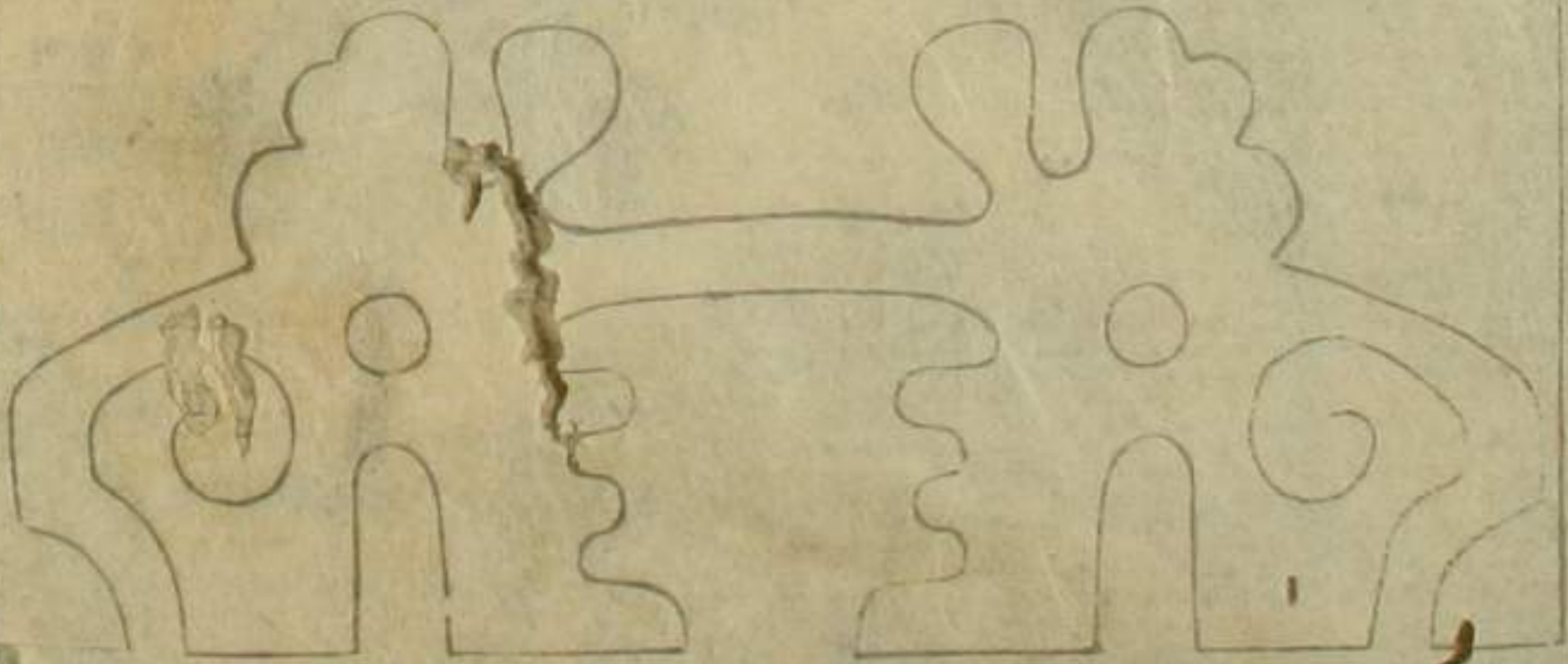
縣の南あり相傳へ燕の昭王の築く石方りと云ふ

易水

縣の南あり易水の北にあり

易水行

易水悲歌動天地前御入秦為燕使秦王  
尊禮設九賓啟間顔咲旁無人於期之頭  
奉上殿血先直射秦之面取持督亢倉  
皇咄哉年少秦彘陽國亦窮不覺見七者  
秦王睨之環柱走前御不得刺秦王無在  
殿提榮囊為謀不成實天意祖於擔  
落前刀死一死可以報太子君不見沙丘  
之椎如此若梁佩蘭 長海



○人物

○晋の張華は方城人なり方城即今の固安縣なり  
○南朝の張弘策は方城の人なり初より後魏に仕へり  
○梁の武帝は固安に生れしなり武帝は固安に生れしなり

永清縣

府の南二百十里あり漢永清縣と云ふは元代に改めしなり

拒馬河

水經云拒馬河代郡の深山中出西晋の劉琨  
此と号する石勒と拒馬河拒馬の河なり

東安縣

府の南二百十里あり漢東安縣と云ふは元代に改めしなり

東沽港

唐駱賓王由易水過東沽詩此地別無丹世髮上衝冠昔時人已没今日水猶寒

渡

河の左右岸と夾む垂楊水と篠と村里の向日霞々

飛虹橋

漢の元将二年此橋と建晋の劉琨此に留飲

晋劉琨墓

幽州の刺史段匹碑琨を推て盟ると云ふ其の石勒を討て

菊城の屯以後後四碑がたれり云々

○人物

金の劉徽柔の安次縣の人なり進士第一洪洞の令とある明敏なり

香河縣

縣の東南百二十里あり武邑縣の地方なり

板骨口河

縣の西より源孤山

駱駝港

縣の北より源三河縣の香河山

百家灣

縣の北より

水源と知れりは付しと水竭以昔此石人居人百余家水溢して瀾漉り今も雨多時附のち小石の積るるも依ふ

三河縣

通州縣の東七十里あり漢の信安縣の地方なり

七渡河

一名多瀆水 縣の東より源三河縣の東より

雲山

縣の北より

華山

縣の北より

○聖水山

山上より水出る眼疾と云々

武清縣

通州縣の南五十里あり漢の雍奴縣と云唐の天官の位に武清縣と改む

三角渡

縣の南より源范疇口より出て王家院河及び劉道口

河魚兒里河

諸水聚り三角渡より東又沽港と會して海に入

三角渡より一の窪あり水挿まに面水あり

直沽

縣の東南より源衛河向河丁字沽の諸水

合流して西南流沽港と合て流さるるに十里其下瓜海口と云毎日潮漲来

○清沽港

縣の南八十里あり西の安沽港と接し

新河

一名鄭河即明代の鄭縣界なり

延芳渡 縣の南より

○崔氏園亭

縣の西南十里あり

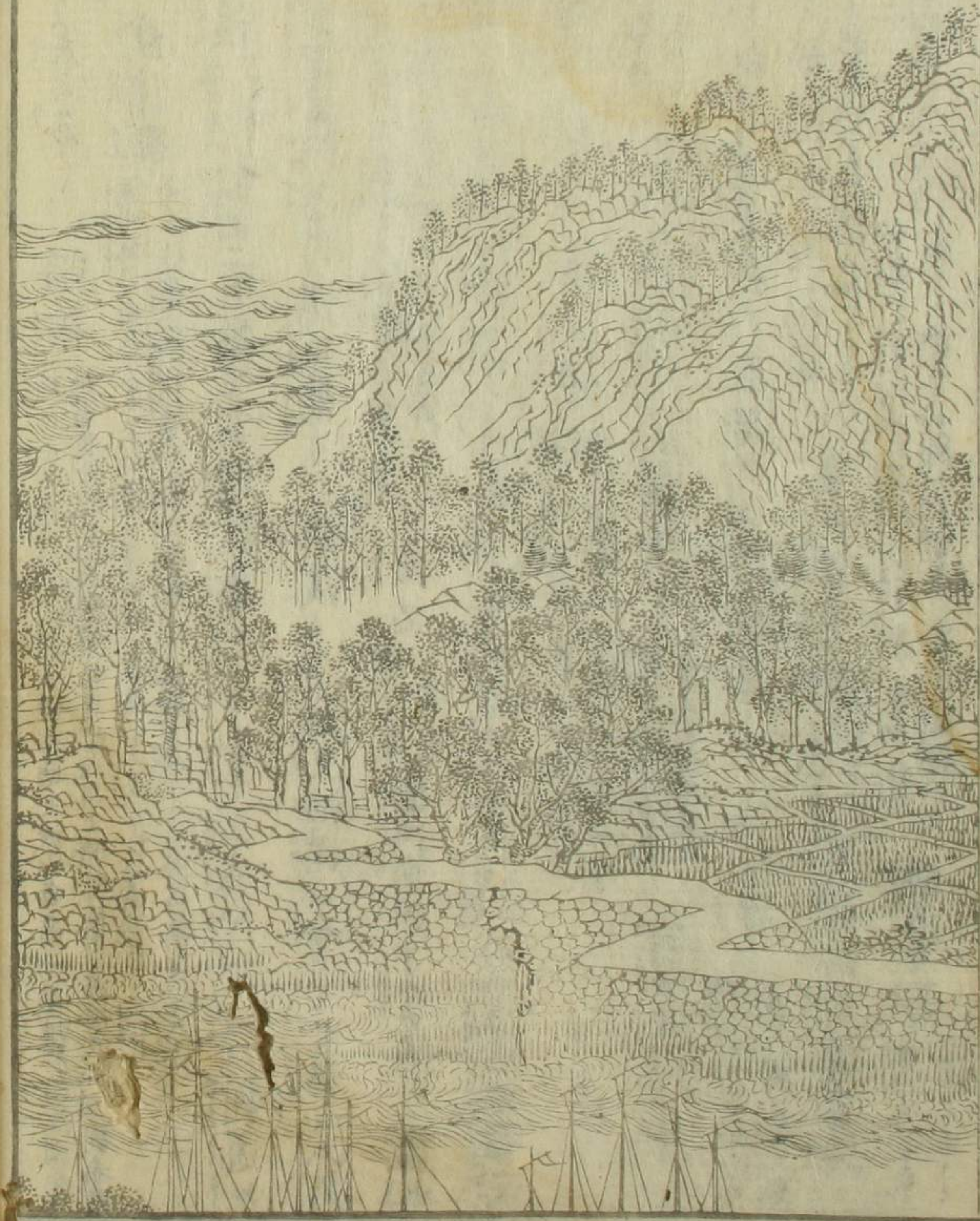
令の臣卿教諭崔淡の園亭の址なり

○瞭鷹臺

鄭河の西南三



直沽



極目滄溟漫  
碧天  
蓬萊樓閣遠  
相連  
東吳轉海輸  
杭稻  
一夕潮來集  
萬船  
元王懋德



直隸

順天府

卷之五



高と十枚大圓田一頂上と人令代の石碑あり。令人温籍 ○得仁務陵 味舞臺

三塚相承と土其基極て崇く其下と右洞あり。洞中時人或人燭をたて洞中に入ふ

○人物

漢の陽城の漢陽袁州の人なり。孝廉と奉らして尚書侍郎と補く又司隸校尉と

○三國の田豫の漢奴の人なり。魏に仕へて七陽の守將なり又南陽に遷る漢城侯と

寶坻縣

通州城の東南二百二十里あり。漢の泉州城の地令の又夏の同縣とて多て宝坻と

潮河 綴の東ニ一石白龍港とあり。潮河の北に白龍港あり。潮河の東に白龍港あり。

廣濟寺

遠の重熙年中常在と云る者あり。宝坻渠水の注ぎ後人於此佛の舎を建其秀と

○人物

遠の重熙年中常在と云る者あり。宝坻渠水の注ぎ後人於此佛の舎を建其秀と

○令の李暹の宝坻の人なり。相書を著し。諸神を教其材と稱し。故にと稱い暹也

寧河縣

宝坻縣の東西八十里あり。明代此縣と改るなり。民衆寧河と云ふなり。

紅心堤

綴の東南百二十里あり。秦の始皇帝の築くなり。堤の心と紅心と云ふなり。

○盧其堂

綴の東南八十里あり。後唐の劉守光の堂なり。盧其堂と云ふなり。

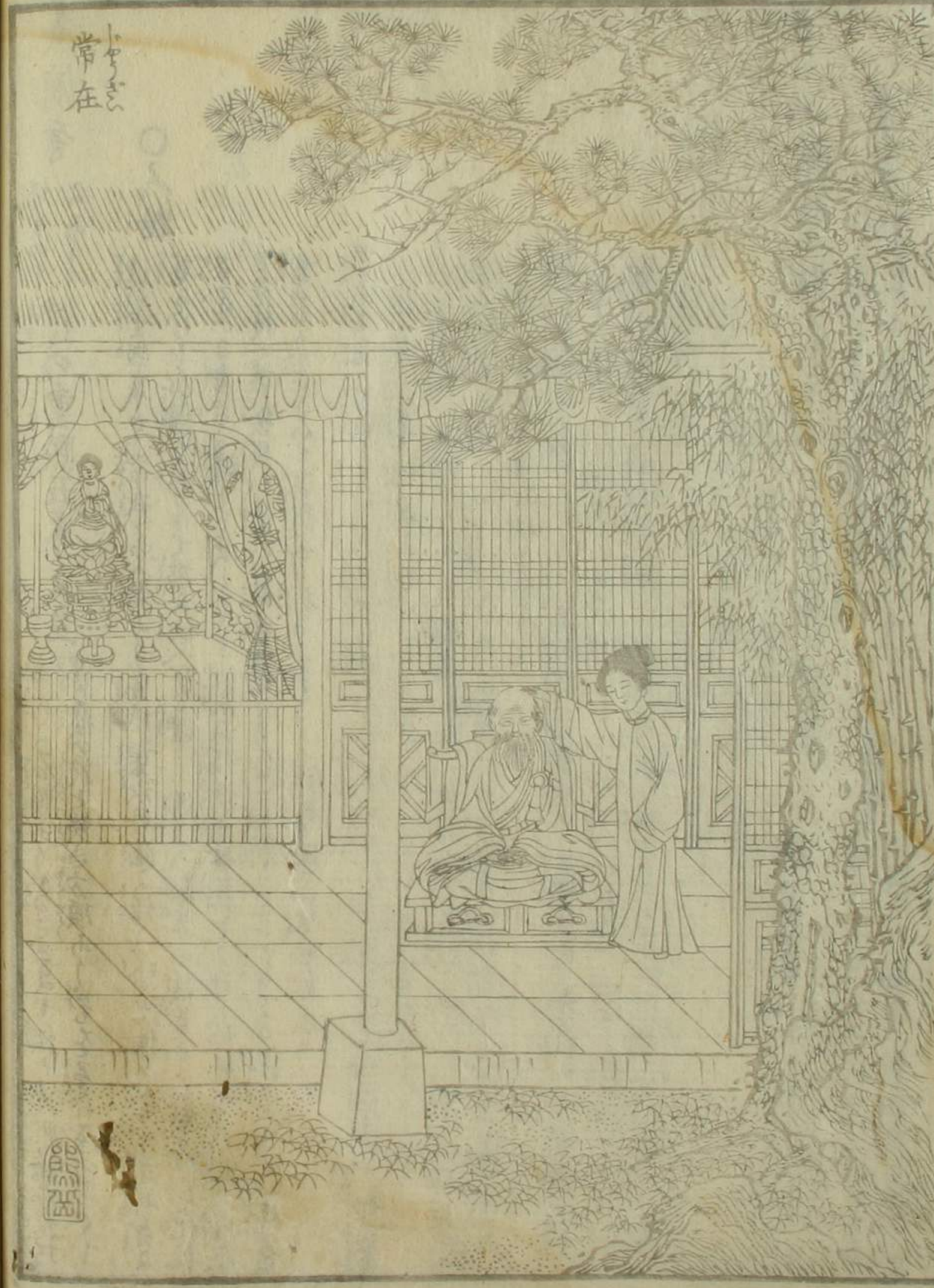
○大覺寺

綴の東門外の寺なり。後唐の劉守光の堂なり。大覺寺と云ふなり。

○歇馬臺

綴の東門外の臺なり。後唐の劉守光の堂なり。歇馬臺と云ふなり。

常在



順義縣

昌平州の東北六十里あり秦の上谷郡の地也齊路より順義縣と云

濕餘水

縣の西南と流

○孔山

縣の南あり山上

○龍山

縣の南二十里あり山上

○牛

欄山

縣の北二十里あり山の甲峯は洞あり洞

○史山

縣の西北三十里あり北麓あり

○人物

梅志仙人は檀州の人なり飛仙の術あり

密雲縣

昌平州の東北百二十里あり

廣淵水

縣の東あり水淵山の南あり

○道人溪

縣の東あり石壁谷の内

密雲山

縣の南十八里あり

○白檀山

縣の南二十里あり

○山中白檀樹多し

香陞山

縣の東あり山上

○清都山

縣の東北六十里あり

直隸

順天府

卷之五

古北口



古北道中  
亂山環合疑無路  
小徑  
紫回長傍溪聲  
夢中  
尋蜀道興州東谷  
鳳州西  
蘇轍詩



直隸

順天府

卷之五

唐土名勝圖會



警畧山

懷柔縣乃小界之方  
崇山峻嶺峙峙如屏  
巖壑深峻上玉皇廟  
仰觀人民俯仰之衆  
新橋必經路之  
之入



灵秀深将前  
接莫  
吉星未了慈  
云百  
玉皇殿暨千  
年百  
泰山人如上  
界山

横塘書  
目

車

直隸

順天府

卷之五



孔水洞



大房山 嶺の西十 縣中諸山乃内よ於て唯此山雄峻はして其の

伏龍窟を龍 大房山乃東よ上よ懸崖千尺餘あり其の窟は洞と云ふ其の中より

○孔水洞 泉涌出源を洞と云ふ其の窟は洞と云ふ其の中より

○黃山 嶺の西南 上よ玉室洞天の 洞あり

○石經山 嶺の西南 峯頂雲の接して天竺山の如く故又小西天と

稱凡 下よ雲居寺あり明表廷玉石經山詩足馬西風古樹邊

○石經洞 石經山の東あり 隋の大業年間法師神悦と云ふ者慕窟して石と擊て洞と云ふ

明洪武中命僧道衍往觀之留詩曰我々石經山蓮峯吐金碧秀氣鐘懸題勝擬擬而域竺墳五

千卷華言百師譯琬公權成減鐵筆寫蒼石片々青瑤光字々太古龜功成一代就藉萬人力

流傳鄙簡編堅固陋板刻深由地穴藏高聳岩洞積初疑神鬼工迺著造化迹延洪勝汲塚防虞

猶孔壁不畏野火燎詎愁苔藓蝕茲山既無盡是法寧有極如何大葉間得此至人出幽明護尔

利乾坤配其德大哉 私忝心吾徒可為則

○穀積山 嶺の西あり 山下二の石洞あり三の石と名く教子人と名く

○般州山 ○馬鞍山 ○大安山 嶺の西南あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○白雲峯 嶺の西南あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○賈 嶺の南あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○賈 嶺の南あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○賈 嶺の南あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○孫贖墓 嶺の西南あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○龍門基 嶺の南二十里あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○人物 嶺の南二十里あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

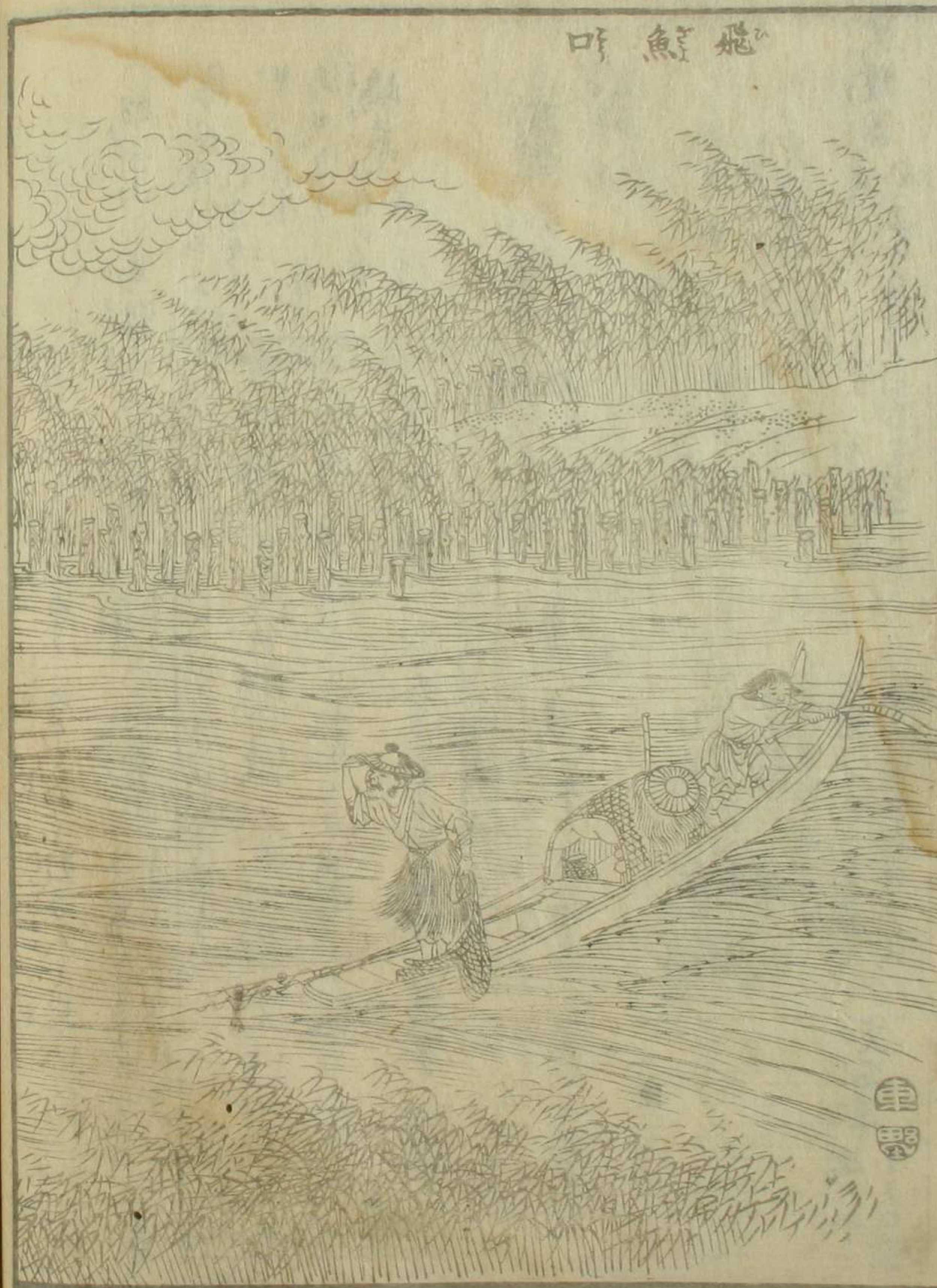
○文安縣 嶺の南二十里あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○文安潭 嶺の南二十里あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

○文安潭 嶺の南二十里あり 嶺の南二十里あり其の北面山と云ふ

水繞其境縣故斜耕人行我文  
谷深重耳三志志多身地茂日風以  
教子花 新谷道要名山墓化 芸聖 聖











保定府總圖

文安縣界

保定府

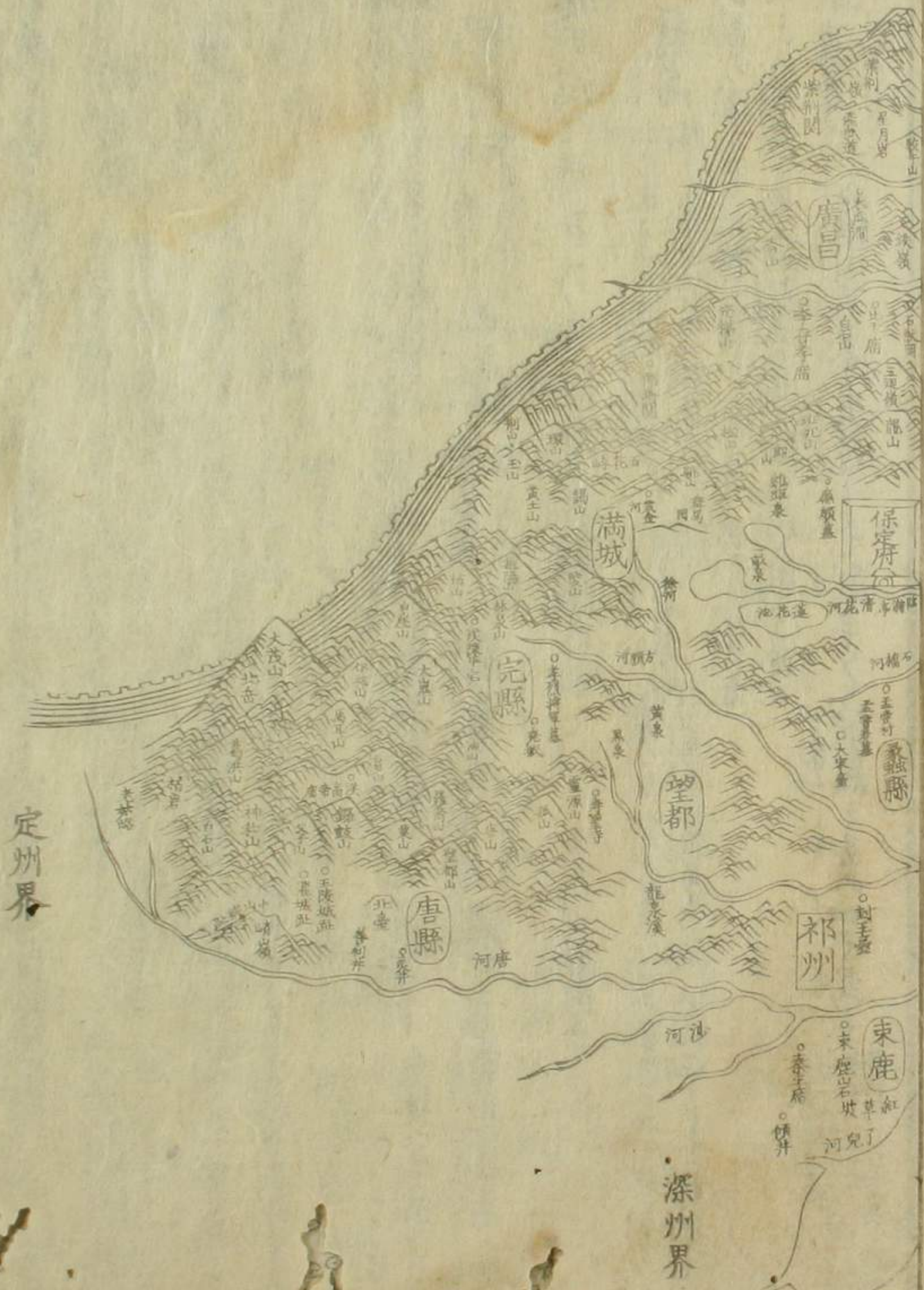
東西六百里  
南北三百二十里



直隸

保定府

卷之五



三百里西直隸易州之廣昌縣之界三百里南正定府之安平縣之界三百里西順天府涿州之界三百里至保定府之涿州境

清苑縣

即保定府城之北城也建於隋順天府治之西三百八十里之漢之魏興縣隋之府治也

清苑河

府城之西二里水勢雖急而水清

秋陂

一畝水府之西三里

石橋河

府之南三里

涿水

府之東南

蓮華池

府治之南

龍泉

府城之北八十里

郎山

府之西十里

燕昭王仙臺

山之面背一無異不待風烟變化神已迷危閣度雲嶺亂石臨荒蹊林間小草不識風

松山

府之西北七十里

樓翠樓

府之東北

題橫翠樓 明黎氏表  
高樓當絕塞 春望轉氳氳  
百戰全燕地 千里大漠雲  
控弦警虜騎 顧憶將軍老  
去親戎馬 悲茹向夕聞  
乙丑春日 橫塘子書

萬卷樓

府之南

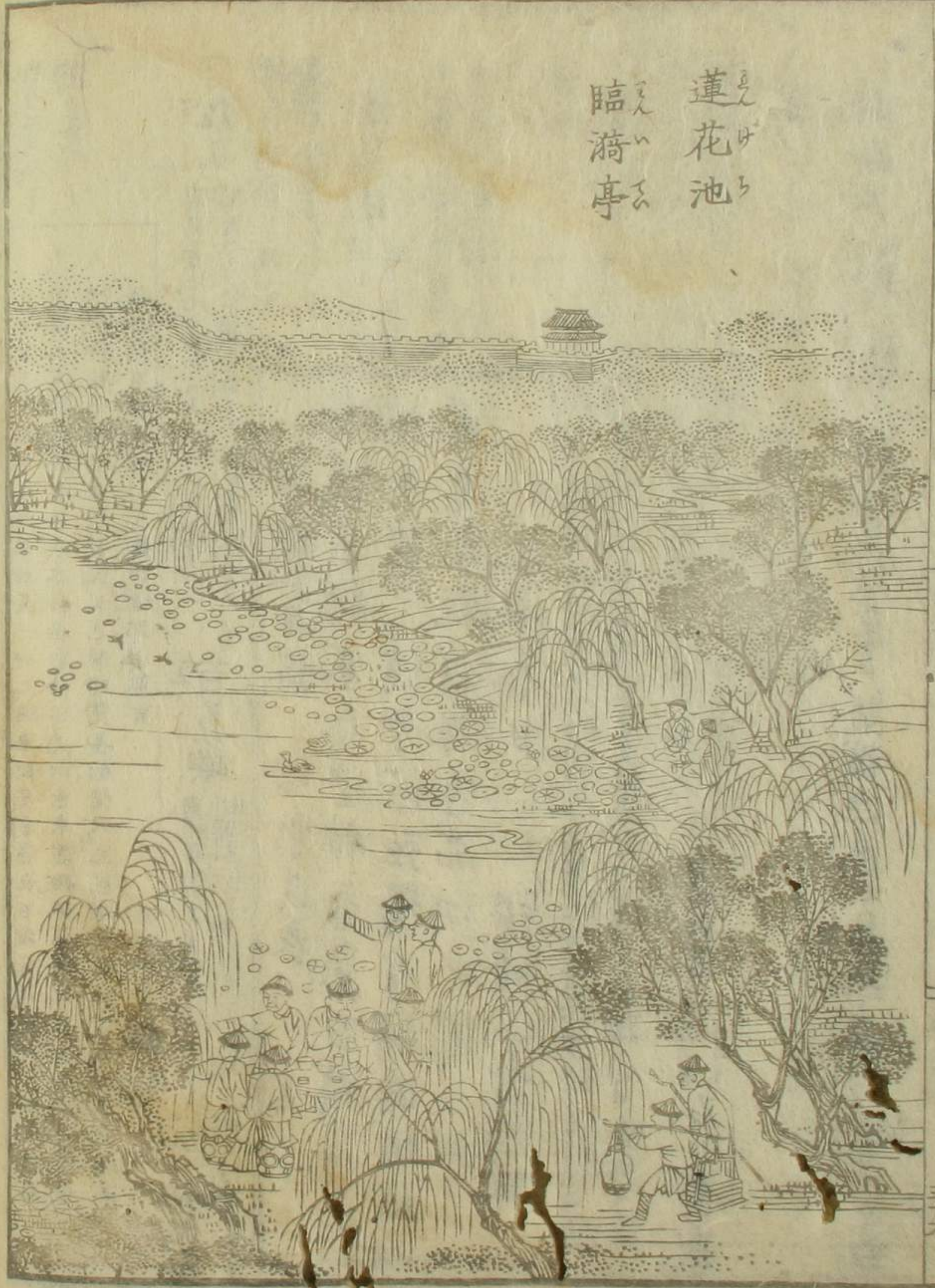
臨濟亭

府城之內

鳴霜樓

府城之北

蓮花池  
臨漪亭



看花亭



直隸

保定府

卷之五





獨善其身... 荆卿之刺秦王也... 荆卿之刺秦王也... 荆卿之刺秦王也...

○人物

耶律休堅... 耶律休堅... 耶律休堅... 耶律休堅...

○州

府之南百二十里... 府之南百二十里... 府之南百二十里... 府之南百二十里...

沙河

沙河... 沙河... 沙河... 沙河...

封王基

封王基... 封王基... 封王基... 封王基...

易水

易水... 易水... 易水... 易水...

讀前朝傳 王岐 悲歌一出髮漸冠遺恨半 易水寒甚咲荆卿不解事欲 教孟軻政學齊桓 井夜充善



凡  
子  
易  
水  
亭  
壯  
士  
一  
去  
不  
改  
意

後漢書

三  
國

直隸

保定府

重  
刊

卷之五

○古堤 卅城の北易水の溪より秦の附 宋代又後漢にて上雲錦基を建

○劉家渡 卅城の西二十里あり 源遠流の石橋河 一畝畝より卅の西と漚を流し

○邊吳塔 卅城の 南あり

滿城縣 保寧府の西四十里あり 南漢の 山平鎮あり 史記に魏晉より小平城と號して 從て燕と方

其後魏の 永熙三年 永安鎮あり 泉源郡

眺山 縣の北三里あり 山下の北 牽馬洞あり 附の北百人を容れ 其山巖石にして 峰尖のかりて 眺を

○陵山 縣の西南 上は古帝王の陵あり あり名く元の至正中 勅して雲山と改

○抱陽山 縣の西南 山勢南に拱 内の谷温わたり 抱陽の附

氷雪の積り少し あり抱陽山と稱れ 石洞七十二あり 大なる者三百人と云ふ 谷谷に小なる者數十

抱幽村あり 雙龍窟宅尊回首萬山東盡處冷烟平遠半乾坤 ○謁山 縣の北七

山頂平曠坐して 抱陽山と石中より水あり ○玉山 山は白石にして ありて玉の

○環山 縣の北十里あり 山は荆樹にして あり

○徐河 又回水あり 源は縣の北十里と傳ふ 大冊河と云ふ 流甚く急

漢書堂 縣の北あり 名相公堂唐の張詠嘗て業と此と律

趙簡子祠 縣の北あり ○張蒼墓 縣の西

○人物 元の苑聖果が 漢武の人なり 性直なり 号は 晋法山の 漢書に 傳ふ

安肅縣 縣の北あり 山は石をくま肥り 田はして 福庭と植

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○龍山 山下に龍王の祠あり 雨と禱あり あり

○易水 易水は長城の西と東と流る。南は易水と北は易水と流る。此河を易水と云ふ。易水は長城の西と東と流る。南は易水と北は易水と流る。此河を易水と云ふ。

○人物

○程天祐 程天祐は安南の人なり。英皇劉直志異あり。程天祐は安南の人なり。英皇劉直志異あり。程天祐は安南の人なり。英皇劉直志異あり。

定興縣

定興縣 定興縣の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を定興縣と云ふ。定興縣の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を定興縣と云ふ。

新城縣

新城縣 新城縣の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を新城縣と云ふ。新城縣の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を新城縣と云ふ。

紫泉河

紫泉河 紫泉河の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を紫泉河と云ふ。紫泉河の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を紫泉河と云ふ。

唐河

唐河 唐河の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を唐河と云ふ。唐河の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を唐河と云ふ。

唐山

唐山 唐山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を唐山と云ふ。唐山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を唐山と云ふ。

望都山

望都山 望都山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を望都山と云ふ。望都山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を望都山と云ふ。

靈源山

靈源山 靈源山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を靈源山と云ふ。靈源山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を靈源山と云ふ。

羅鼓山

羅鼓山 羅鼓山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を羅鼓山と云ふ。羅鼓山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を羅鼓山と云ふ。

栗山

栗山 栗山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を栗山と云ふ。栗山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を栗山と云ふ。

父山

父山 父山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を父山と云ふ。父山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を父山と云ふ。

栢巖山

栢巖山 栢巖山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を栢巖山と云ふ。栢巖山の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を栢巖山と云ふ。

老姑峪

老姑峪 老姑峪の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を老姑峪と云ふ。老姑峪の西は三十里あり。北齊の大寧二年軍士の遺骨を拾ひ此に葬る。其石の形を老姑峪と云ふ。

博野縣

博野縣

博野縣の東南九十里あり。此地博水あり。又博水なるは博野縣の景。博野縣の東南九十里あり。此地博水あり。又博水なるは博野縣の景。博野縣の東南九十里あり。此地博水あり。又博水なるは博野縣の景。

博水

博水は博野縣の東南九十里あり。此地博水あり。又博水なるは博野縣の景。博野縣の東南九十里あり。此地博水あり。又博水なるは博野縣の景。

望都縣

望都縣

望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

龍泉河

龍泉河は望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

清水河

清水河は望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

灤龍河

灤龍河は望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

黃泉

黃泉は望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

黑泉水

黑泉水は望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

人物

人物の邊境は望都縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

容城縣

容城縣

容城縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

劉因墓

劉因墓は容城縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

人物

人物の邊境は容城縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。



元劉因之像

完縣

完縣の西南九十里あり。漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。此地の景都縣は漢の景都縣を改めて望都縣と名づけた。

馬耳山

雙峰何年聳  
 双耳  
 叱之不動頰  
 風雷  
 今朝向我如  
 神駿  
 張色欲迷神  
 鞭來  
 浮世浮名酒  
 一杯  
 我欲駕此輶  
 蓬萊  
 三愁日暮三  
 山上  
 黃塵回首令  
 人哀  
 元劉因作

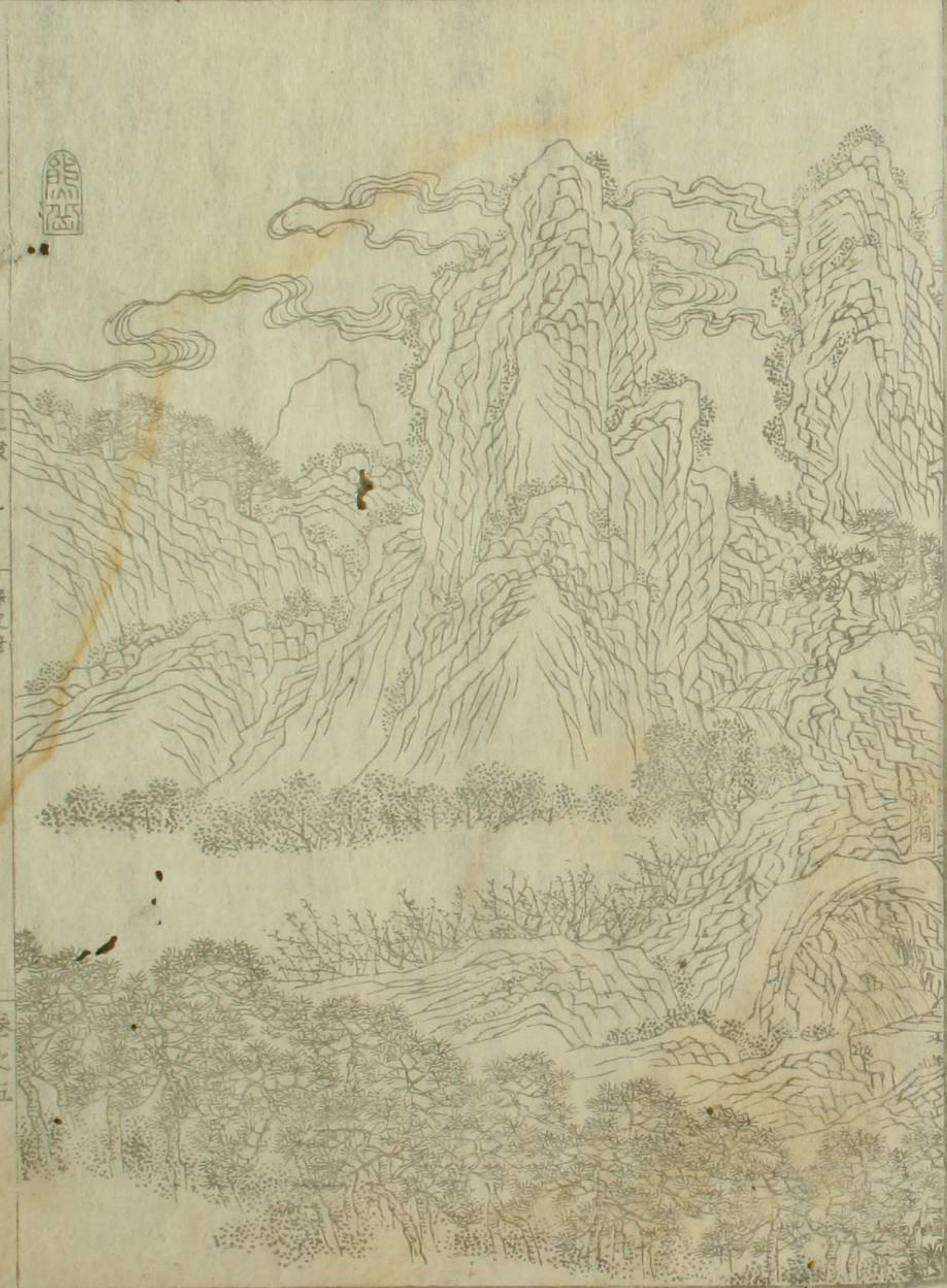


桃花泉

直隸

保定府

卷之五



濡水一名北易水

源在嶺山... 漢書地理志云

林尖山 嶺の東二十里... 大

崑山

嶺の西二十里... 崑山

油山

嶺の西南... 油山

後祁山

嶺の西三十里... 後祁山

白崖山

嶺の西北十里... 白崖山

栢山

嶺の北十里... 栢山

馬耳山

嶺の西二十里... 馬耳山

二の峯高く聳へて天を挿む馬の耳に似たり

漢陳平宅

嶺の北門... 漢陳平宅

堯城

嶺の南... 堯城

若烈將軍祠

嶺の東... 若烈將軍祠

陳平墓

嶺の北... 陳平墓

靈縣

保寧府の南九十里... 靈縣

紫微山

嶺の東... 紫微山

無影山

嶺の南... 無影山

寶寧寺

嶺の東... 寶寧寺

又右塔有り

周十丈高... 又右塔有り

漢霍光廟

嶺の西... 漢霍光廟

人物

漢の王商... 人物

漢賢神廟

齊の廟... 漢賢神廟

雄縣

府城の東百二十里... 雄縣

大雄山

嶺の西... 大雄山

小雄山

嶺の東... 小雄山

易京城

嶺の南... 易京城

亞谷城

嶺の西... 亞谷城

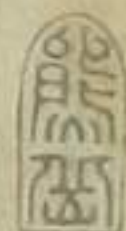
瓦橋關

嶺の東... 瓦橋關









永平府總圖

永平府 東西三百里 南北二百廿里

錦州界



直隸

永平府



射虎石



府の西に十里あり。世に孫州府の墓あり。

○龜谷 府の東南二里あり

其散龜又似たり。其中煖氣勃然。故其地多瘠。又其地多瘠。故其地多瘠。

鳴遠樓 ○是高樓也。文會亭 ○釣魚臺 ○望海其臺

○桃林口関 府の北にあり

伯夷叔齊廟 府の北にあり

古孤竹園 府の北にあり

古肥子園 府の北にあり

石槽 府の東にあり

古朝鮮城 府の北にあり

三竹 府の北にあり

人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

○人物 漢の周勃が相なり

誰不怨兵  
結死子怨  
不降其志  
不辱其身  
人象之自  
義之于嗟  
守之民也

南平府

伯夷叔齊



遷安縣

永平府の西北十里あり。漢の令狐縣とす。遼の慕容廆と長く。金の慕容皝中。にじま。

青龍河

緑の赤ゆ七十里あり。水の外。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

寛河

嶺の甲。寛河。嶺の南三

山あり。嶺の南十

嶺山

嶺の赤ゆ十八里あり。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

嶺山

嶺の赤ゆ二十里あり。嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

嶺山

嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

聖水

嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

嶺山

嶺の赤ゆ二十里あり。嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

嶺山

嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

後河山

嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

青山

嶺の赤ゆ二十里あり。嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十

嶺山

嶺の赤ゆ。山ありて巨巖あり。此山多し。嶺と名あり。龍泉山。嶺の南十



山海關

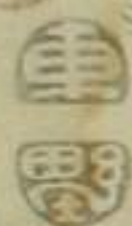


登氣樓  
一日蓮蓬



直隸

永平府



卷之五



○五花城 山海關の 其城五ありて連り據る。

相傳、唐のときある藤とす。附、其將、薛仁恭が築くなり。

昌黎縣

永平府の東南八十里あり。つや、一の營州の地、後魏の付、遼、西郡と云。唐、後、唐、州と云。金、の大、安、の、同、州、也。魏、の、人、を、以、て、昌、黎、と、名、す。唐、の、昌、黎、縣、と、す。唐、の、昌、黎、縣、と、す。唐、の、昌、黎、縣、と、す。

急流水 ○沙源河 魏、の、源、の、西、に、あり。

○蒲泊 魏、の、源、の、東、に、あり。

○後頭河 魏、の、源、の、西、に、あり。

○溟海 魏、の、源、の、東、南、に、あり。

○廣表

三十里、若、深、く、若、浅、く、中、に、其、委、委、矣、極、の、類、也。

一、在、七、里、離、海、無、幾、元、且、城、市、樓、臺、皆、海、の、上、に、あ、り、海、の、廣、を、據、り、お、す。

石門山

魏、の、源、の、西、に、あり。

○裾齒山 魏、の、源、の、西、に、あり。

○道者山 魏、の、源、の、西、に、あり。

○東山 魏、の、源、の、東、に、あり。

○水巖山 魏、の、源、の、西、に、あり。

一、在、石、門、山、の、南、に、あり。

○鳳凰山 魏、の、源、の、西、に、あり。

○海眼山 魏、の、源、の、西、に、あり。

○山石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

中、に、水、が、流、り、く、激、し、潮、

汝の瀉于候又意次 ○碣石山 魏、の、源、の、西、に、あり。

南、河、の、中、に、あり。今、平、州、の、南、也。魏、の、源、の、西、に、あり。碣、石、山、と、す。魏、の、源、の、西、に、あり。碣、石、山、と、す。魏、の、源、の、西、に、あり。碣、石、山、と、す。

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

魏、の、源、の、西、に、あり。中、に、水、が、流、り、く、激、し、潮、

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

魏、の、源、の、西、に、あり。中、に、水、が、流、り、く、激、し、潮、

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

魏、の、源、の、西、に、あり。中、に、水、が、流、り、く、激、し、潮、

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

○魏石洞 魏、の、源、の、西、に、あり。

魏、の、源、の、西、に、あり。中、に、水、が、流、り、く、激、し、潮、

韓昌黎祠

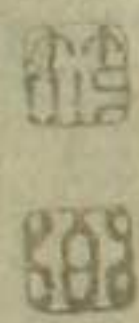
魏、の、源、の、西、に、あり。唐、の、韓、愈、の、祠、也。韓、愈、の、人、を、以、て、昌、黎、と、名、す。唐、の、昌、黎、縣、と、す。唐、の、昌、黎、縣、と、す。唐、の、昌、黎、縣、と、す。

謁韓文公祠

張尚瑗

摠角誦公文不啻徧三絕半世味公道無絲劍一映維  
公不朽姿薄雲貫虹蜺謫傷與詩銜西看均蠓蟻  
氛氳一裊香萬古應同蕪舉、何未生敢云景行  
切潮陽滴官區偶然鴻爪雪藉此滌炎陬海濱才  
杓揭湖流漾清泐峯執環瓦畧江山銜明德臨  
眺心神澈白雲飄搭楹恍憶靈旗制予

南豐書



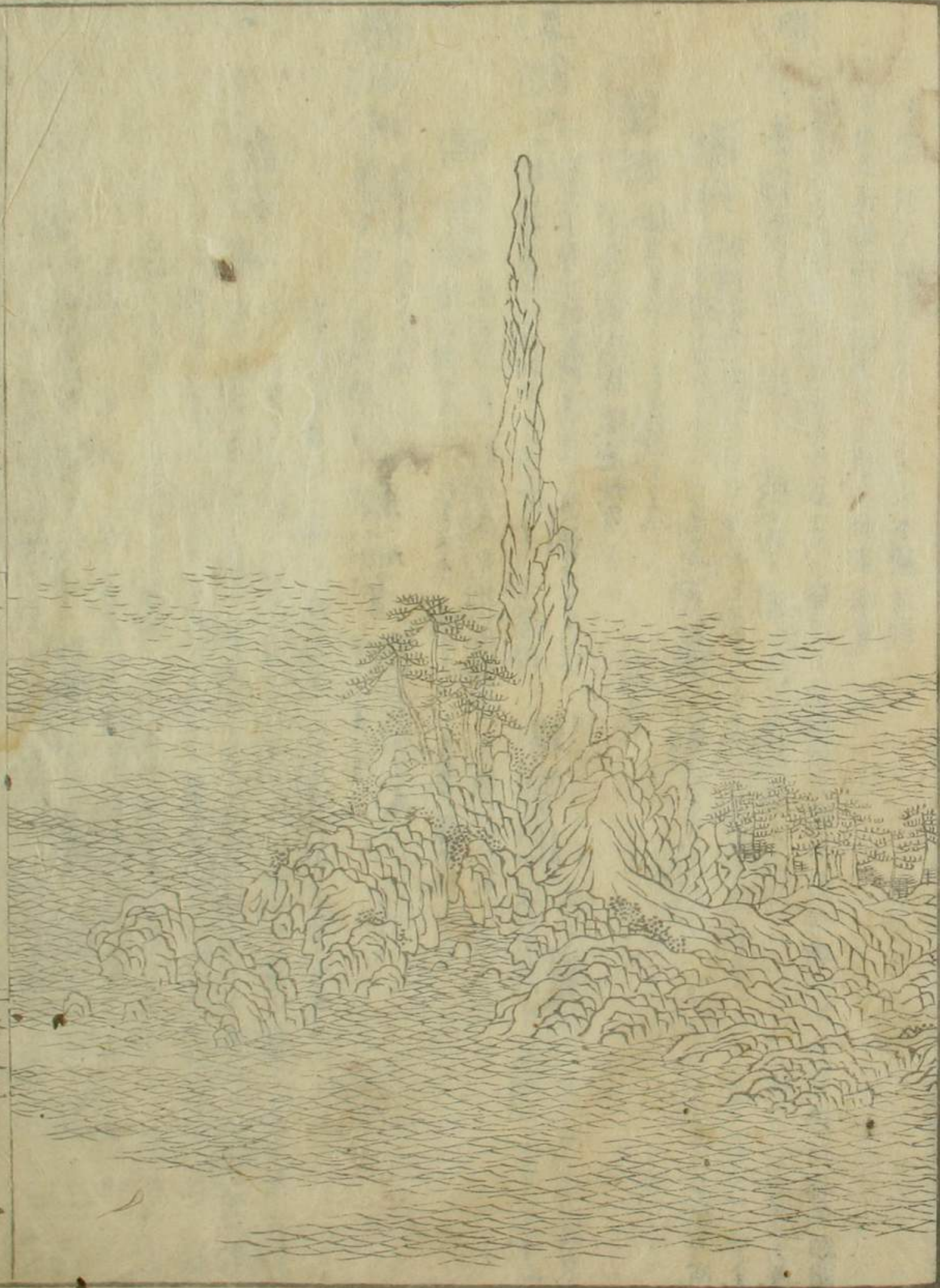
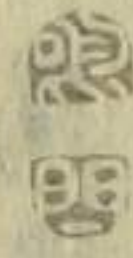
碣石山

魏武帝樂府日出

東南隅云

東臨碣石以觀滄海  
水河澹々山島竦峙  
樹木叢生百草豐茂  
秋風蕭瑟洪波湧起  
日月之行若出其中  
星漢燦爛若出其裏  
幸甚至哉歌以詠志

鳴門書



直隸

永平府

卷之五



河間府總圖

河間府 東西百八十二里  
南北四百廿二里

天津府界



山東界

保定府界



直隸

河間府





紅杏園

乾隆帝  
 渤海經古邑芳園  
 駐翠輦  
 徘徊尋故跡云昔  
 日華館  
 三雍曾著秋五經  
 亦賴顯  
 崇構早傾頽土階  
 新拓展  
 池臺取畧具翠書  
 供靜遠  
 物力毋亟勞容膝  
 斯已善  
 荒鳴門書



紅杏園行宮

直隸

河間府

卷之五



○馬頰河 條の長六十里より此河上流

○約盤河 條の長六十里より此河上流

○約盤河 條の長六十里より此河上流

○房溝 再城一湖の長と矢の長を併せると此河の長なり

○中水湫

條の長三十里より此河上流

○樂壽巖

條の長三十里より此河上流

○人物 漢の劉歆明樂城の令なり

○阜城縣

漢の阜城縣の地なり

○劉麟河

條の長三十里より此河上流

名號御莊 郡人程敏政詩

○華陽亭

條の長三十里より此河上流

○漢劉晝墓

條の長三十里より此河上流

○平虜渠

條の長三十里より此河上流

○唐河堤

條の長三十里より此河上流

○任邱縣

條の長三十里より此河上流

○不盡西山

條の長三十里より此河上流

○第我古問

條の長三十里より此河上流

不盡西山色蒼茫 遠帝都內廷 傳甲第我古問 妻孥寤寤隆中嘯 悲涼督亢圖 昔賢知未遇 時一哭窮途

計東任丘道中詩

岡芳常







濡水

保寧府の容城縣のやうにあり。源は涿州の西十里と云ふ。東流し、易水と合流し、石門を過り、涿州に至る。申此水。

涿水

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

保寧府の容城縣のやうにあり。源は涿州の西十里と云ふ。東流し、易水と合流し、石門を過り、涿州に至る。申此水。

保寧府の容城縣のやうにあり。源は涿州の西十里と云ふ。東流し、易水と合流し、石門を過り、涿州に至る。申此水。

五龍潭

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

白龍潭

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

涿縣

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

蓮花泊

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

莫若陂

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

令沙嶺

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

桂巖

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

趙北

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

白馬峯

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

趙北

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

趙北

涿州の北にあり。源は涿州の北にあり。東流し、易水と合流す。

趙北

田田之

燕南趙北

只此

十季之

約耕



趙北口



直隸

河間府



黄河古道



直隸

河間府

卷之五

孫贖墓 孫の東南あり墓の上より廣あり

故城縣 府城の南二百九十里あり

枯河 孫の西南二十里あり

居園亭 孫城の南百二十里あり

東光縣 孫城の南百二十里あり

胡蘇河 孫の東三里あり

換河 孫の東あり

胡蘇墓 孫の東あり

景州

唐の東二百里あり

補河 州の東三里あり

障水 州の東あり

廣川墓 州城の東あり

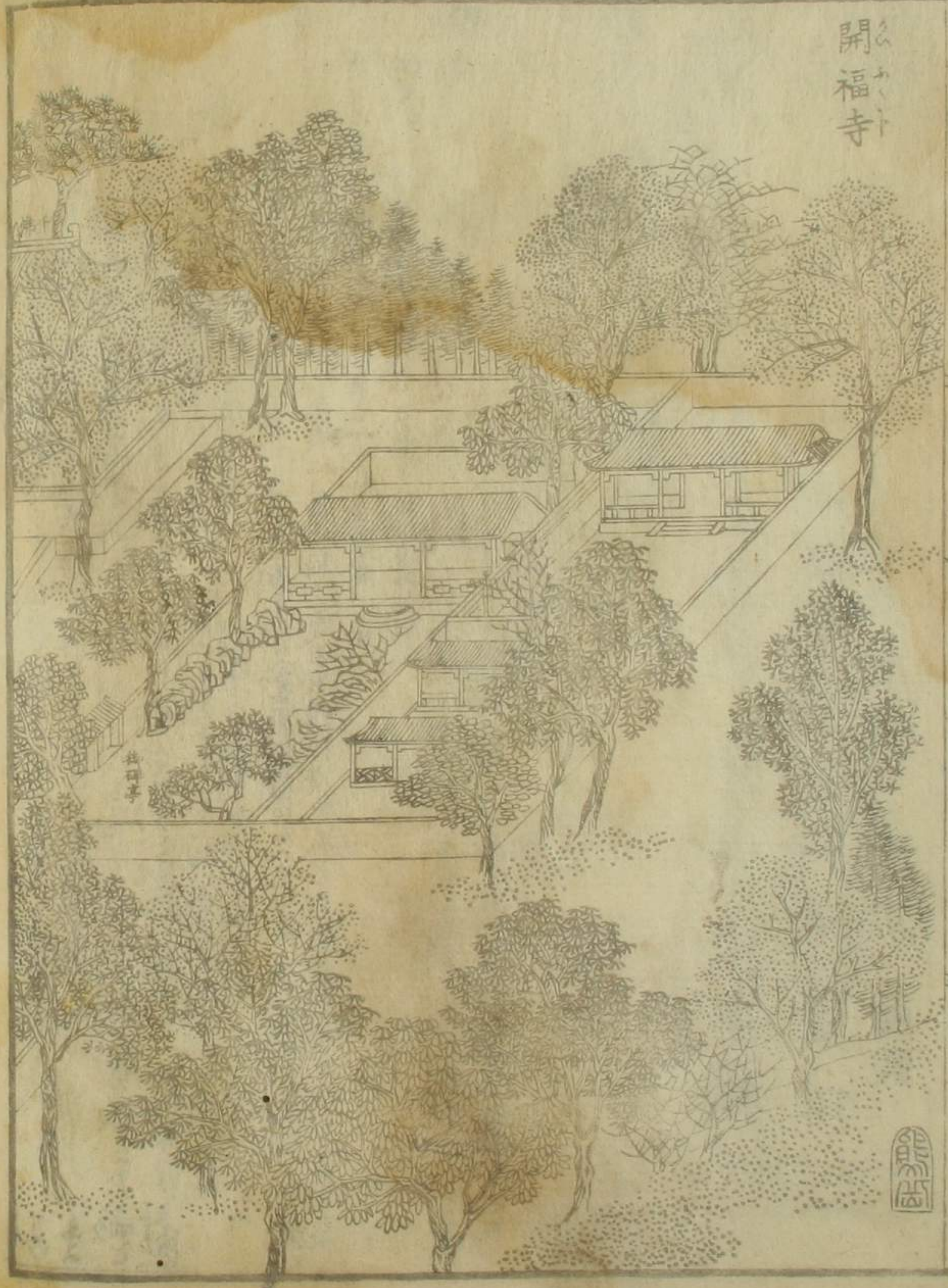
博士文章 獨闢漢西京

用福寺 州治の西あり

周亞文廟 州の西あり

漢室深孫只似癡 楚王當事更無機  
荒墳空映應從墓 宜有神光盡陸  
離 元宋本園亞夫廟詩 東阿

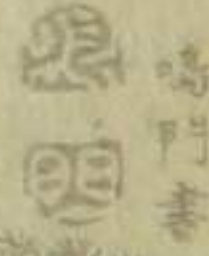
開福寺



熊崗

六八

乾隆帝  
 紺宇現音蓮  
 瞻遊取路便  
 法雲唐四界  
 花雨散諸天  
 韶秀春光闕  
 崇巖塔影懸  
 禪房柳靜愜  
 駒隙指三年

鳴門書  




天王殿

直隸

河間府

卷之五

弓高城

卅の北に十里あり。漢の縣城の遺址なり。

○廢情縣

卅城の内あり。漢の縣城なり。

○廣川廢縣

卅の西南あり。隋の縣城の遺址なり。

○董家里

卅の西南六十里あり。

廣川鎮即董仲舒の下帷讀書の處也。

董仲舒の著書に用いたる河堂の語。同様の漢書に載る。

廣川の人廣川の董都郡に屬し。今の景州廣縣は之縣の西南の郷に廣川鎮あり。其別墅を董家里といふ。董仲舒の著書に載る。

連邨禾黍名猶昔故址荒蕪草白  
 春慨想江都為相日高風千古更  
 誰論名宋紹明董家里詠  
 文化乙丑復月吳所米迪書



高類故宅

卅城の北にあり。又楊樹あり。高類の故宅なり。高類、漢の博士也。卅の北にあり。高類の故宅なり。高類、漢の博士也。卅の北にあり。高類の故宅なり。高類、漢の博士也。

又左僕射の故宅なり。卅の北にあり。高類の故宅なり。高類、漢の博士也。卅の北にあり。高類の故宅なり。高類、漢の博士也。

○賈島村

卅の西南六十里あり。唐の詩人賈島の故宅なり。賈島、唐の詩人也。卅の西南六十里あり。唐の詩人賈島の故宅なり。賈島、唐の詩人也。

防山村

廣川鎮の南にあり。防山の村なり。防山、山名也。廣川鎮の南にあり。防山の村なり。防山、山名也。

○人物

南朝の高僧、渤海の僧人なり。高僧、南朝の僧人也。渤海の僧人なり。高僧、南朝の僧人也。渤海の僧人なり。高僧、南朝の僧人也。渤海の僧人なり。高僧、南朝の僧人也。

唐の詩人賈島の故宅なり。賈島、唐の詩人也。賈島の故宅なり。賈島、唐の詩人也。賈島の故宅なり。賈島、唐の詩人也。賈島の故宅なり。賈島、唐の詩人也。

封氏の故宅なり。封氏、漢の博士也。封氏の故宅なり。封氏、漢の博士也。封氏の故宅なり。封氏、漢の博士也。封氏の故宅なり。封氏、漢の博士也。



